

公社の歩み

- 昭和37年(1962年)5月、日本が東京オリンピックを目前に控えた当時、都市部においては高度経済成長を背景に消費環境が大幅に向上し、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムによって廃棄物の排出量の増大を招いたため、公社は、東京都の清掃事業を補完すべく、大規模排出事業者から出される廃棄物の収集・運搬及びその適正な処分を主たる事業として設立されました。
- その後、河川の水面清掃、清掃工場等の計器保全、粗大ごみの申告受付、産業廃棄物の中間処理など事業拡大を図りながら社会ニーズに応え、社会の公器としてその役割を担ってきましたが、平成12年(2000年)の都清掃事業の特別区移管、平成20年(2008年)の廃プラスチックのサーマルリサイクルの開始による廃棄物処理量の減少、リサイクルの進展のほか、民間事業者による環境ビジネスの成長など社会経済状況の変化は、将来を見据えた公社事業のあり方を大幅に見直す契機となりました。

